



# 澤村 社長 春日 強 氏



縁戚である春日和夫社長からバトンを託された。和

夫氏が、伊藤忠商事での経験を發揮してほしいと同社トップに招聘（しょうへい）し、昨年末に病氣療養で退任した清水民生前々社長からのバトンでもある。

今ではトリコットと同生地を使ったインナー製品を主力とする同社だが、強氏はこの二つの事業

を経験したことがない。子供服向けの織物販売からスタートし、婦人服向けの丸編み地販売やミセス製品OEMなどを営業の最前線

で経験を積んできた。子供服向け生地販売で

どがむしゅらに動いてい「た」強氏が、初めてこの業界に飛び込んで良かったと思えた瞬間だった。婦人服向け生地販売の売り先は名岐地区のアパレル。同地への転勤を言い渡

2002年に帰阪。4年間をミセス製品OEMの営業部隊で過ごす。06年に突然言い渡されたのが財務部への異動。「金庫番も経験しておけ」という当時の社長の指示だった。社長への道が始まった。

た。この改善に向けて、以前は年に一度開いていた「P&C会（パートナー&コミユニケーション会）」を十数年ぶりに実施する予定だ。今期から中期経営計画も始動。20年が設立95周年、22年が創業150周年を迎えるタイミングである。企業ロゴの刷新、スリーハートの精神に基づいた取引先との関係強化、グローバル製販体制の構築などを推進し、清水社長が取り組んできた「船場の問屋から商社への転換」を踏襲しつつ、「糸から製品まで商工一体のナンバードワン専門商社を目指す」。

## スリーハートの精神で

1979年大やど服地や製品の営業部門、財務部などをを経て2008年12月執行役員。09年12月取締役管理本部長兼財務部部長。17年12月代表取締役常務。19年8月代表取締役副社長。同年12月から代表取締役社長。20年1月から兼社長執行役員。63歳。北海道生まれ、兵庫県伊丹市育ち。趣味はウォーキング。

は、自分が作った生地の製品を着た子供を町で見掛けたい。それが「若い頃は得意先に日参するな」

38歳の時だ。大阪にマンションを購入した直後だった。選択したのは単身赴任。その悔しさ、寂しさを晴らすかのよつに8年間、名岐アパレルに生地を売りまくった。

(武)